Oyama

2026年10月30日
町田市立小山小学校
校長　　三瓶　昌信

町田市小山町９４４番地
TEL　７９７－２７３３
http://www.machida-tky.ed.jp/e-oyama/

今こそ必要な「察する力」

校 長　　三瓶　昌信

25日のオヤマリンピックにはご多用の中、大勢の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。前日の延期に加え、当日も校庭の状態を確認するまではドキドキでした。一部に水たまりがありましたが、教職員が朝早くから校庭の整備を行いました。保護者アンケートでは、こうした教職員の対応について、温かいお言葉をたくさんいただきました。また、応援団をはじめ、オヤマリンピックを支えた高学年の係の活躍にも目を向けてくださいました。各学年の子供たちの動きや表情、思いまで、たくさん褒めていただき、本当にうれしいです。細やかにお気遣いいただき、ありがとうございます。

当日は進行が遅れ、終了時刻、下校も遅くなってしまいました。申し訳ありませんでした。会場の片付けは５年生が行う予定でしたが、急遽、下校後に教職員が行うこととしました。すると、ＰＴＡ役員の皆様をはじめ、保護者の皆様が次々と片付けの作業をしてくださいました。子供たちが下校する頃には、ほとんどの片付けが終了しました。「片付けにご協力ください」というアナウンスを繰り返し行い、お手伝いしていただくことは、どの学校でもありますが、今回は皆様が状況を察し、自ら動いてくださいました。これこそ小山の「地域力」なのでしょう。感謝の気持ちでいっぱいです。

「察する力」…今、私たちに求められているものではないでしょうか。

今日の社会では、様々な場面で自分の主張を通そうとするあまり、些細なことから対立が生じることがあります。相田みつをさんの詩「セトモノ」の冒頭にある「セトモノとセトモノと…」という一節が思い浮かびます。その一方で、周囲の出来事に関心をもたず、自分には関係のないこととして受け流してしまう風潮も見られます。

もちろん、自分の考えや思いをもち、相手に伝えることは大切です。そして建設的に議論することも必要です。重要なのは、自分の主張だけを押し通すのではなく、相手の立場や気持ちにも目を向けることではないでしょうか。

こうした自分本位な言動や、周囲への無関心は、大人だけでなく、子供たちの世界にも見られるように感じます。本校だけではなく、多くの学校に共通する課題でしょう。

そこで登場するのが、**「察する力」**です。「状況を判断する」「思いやる」「推し量る」「理解する」等「察する力」の大切さを子供たちに伝え、学ばせるのは私たち大人の責任と考えます。

繰り返しお伝えしてきましたが、保護者の皆様は、学校のお客様ではありません。子供たちの成長を共に支えるパートナー（協力者、支援者）です。そして時には厳しい「ご意見番」でもあります。

子供たちの学力、体力、道徳や生活指導に関する力など、学校教育だけでは十分ではありません。子供たちの豊かな成長には、家庭教育や地域での学びが必要です。

「小山の子供は、小山で育てる」～今後とも、皆様のお力とお知恵をお貸しください。